

# 2023年 市長新年あいさつ

## “100年後も元気なまちへ、 5つの視点で 地方分散型社会の実現を”



舞鶴市長  
多々見 良三

新年おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

未だ続く新型コロナウイルス感染症の影響に、感染を防ぎながら日常生活、社会活動、経済活動を続けていくため、ワクチン接種や3密の回避など、感染予防、拡大防止対策にご理解、ご協力をいただいておりますことに対しまして心から感謝申し上げます。

このような状況の中で、昨年は3年ぶりに赤れんがハーフマラソンのリアル開催や地域行事の再開、学校生活においても宿泊を伴う修学旅行の実施など、感染対策をしながら少しずつ日常を取り戻してまいりました。

赤れんがパークでは、Park-PFI 制度を活用した民間活力による運営が開始され、西地域では港周辺とまちなかをつないでまちの活性化を進める「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」が登録されました。

また、昨年は大浦地域と加佐地域に活性化センターを開設、地域と一体となって魅力ある地域づくりを推進したほか、舞鶴市文化親善大使の田中彩子さん、エル・システムジャパン、舞鶴子どもコーラスと「音楽を通して子ども達に生きる力を育むまちづくり」協定を締結するなど、幅広い世代が心豊かに暮らせるまちづくりを進めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、生活や経済活動に必要な物資の安定供給、サプライチェーンリスク

が懸念される中、都会と比較して3密を回避しやすく、食料、エネルギー等を創出できる地方都市の強みを生かし、東京一極集中から脱却し、大都市と地方都市が共存する地方分散型の社会を実現することが極めて重要であるとの認識が広がっています。

これまで「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らしの実現」によって、地域が有する機能、魅力を磨き上げ、多様な連携を生かすことで、地域が活性化する、持続可能な地方都市圏を構築することができることを全国に示したい、本市のまちづくりを地方分散型社会のモデル都市にしたいとの思いで数々の施策を進めてまいりました。

こうした中、本年は市制施行から80周年を迎えるとともに、第7次総合計画後期実行計画がスタートする節目の年です。

この地域が50年後、100年後も国にとって重要な地域であり続け、市民の皆さまが誇りを持って住み続けられるまちづくりには、現状をしっかりと把握する中で、将来のあるべき姿を明確に示し、その実現のために、今何をすべきかを考え、実践していくことが必要です。

そのためにも、これから求められる「デジタルトランスフォーメーションの推進」、「グリーントランスフォーメーションによる地域経済の振興」、「地域コミュニティの活性化」、「少子化対策の推進」、「感染症対策」の5つの視点が重要です。この5つの視点をしっかりと取り入れ、これまで取り組んでまいりました「心豊かに暮らせるまちづくり」、「安心のまちづくり」、「活力あるまちづくり」の3つのまちづくりの取り組み成果を最大限に生かし、未来起点のバックキャスト型のまちづくりを進めてまいりますので、本年も変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのますますのご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。

